

## 環境モデル都市提案書（様式1）

タイトル	エコ情報を発信する観光の町 洞爺湖町	
提案団体	洞爺湖町	人口：10,715人（平成20年4月30日現在）
担当者名及び連絡先	担当者の所属 総務部企画防災課企画防災係 氏名 杉野 知之 電話番号/ファックス番号/メールアドレス 0142-74-3004 / 0142-74-2121 / kikaku@town.toyako.hokkaido.jp	

### 1 全体構想

#### 1-1 環境モデル都市としての位置づけ

当町は、北海道の中央南西部「支笏洞爺国立公園」区域内に位置し、総面積は、約181平方キロメートル、観光と農業・漁業が盛んな、洞爺湖と有珠山、そして内浦湾に囲まれた緑豊かな大地と景観あふれる町です。

当町は、以前より環境への取組みを進めておりましたが、北海道洞爺湖サミット開催決定を契機に、更に美しい自然景観や環境を保全するとともに、2030年温室効果ガスを50%削減することを目標値として掲げ、産業施設を中心に環境負荷の低減と経費節減を具体的に推進するためにチーム洞爺湖マイナス50%事業（環境省所管「環境と経済の好循環のまちモデル事業」）を立ち上げ、美しい環境対策先進観光地 洞爺湖を目指しております。

「環境と気候変動」が主要なテーマのひとつであります北海道洞爺湖サミット開催地として、今後もこのテーマを引継ぎ、エコ対策を推進するNPO法人等による温室効果ガスの削減に向け全町的な推進を図るとともに、カーボンオフセット事業として、CO2吸収効果の高い樹種を使用した町民植樹祭はもとより、全国から訪れる約400万人の修学旅行生や観光客を対象として植樹活動を展開してまいります。

農業においては、減化学肥料、減農薬や有機肥料による安全・安心なクリーン農業に取り組んでおりますが、これをさらに推進するため、バイオマス事業としてホタテ貝養殖漁業により排出される雑物や肉牛生産牧場から排出される牛糞などの有用有機資源の発酵処理により有機肥料の有効活用による付加価値を高めた、循環型クリーン農業を推進してまいります。

また、平成19年度、JAとうや湖が雪エネルギーを活用した雪蔵貯蔵施設（じゃがいも貯蔵能力1,500トン）を整備しておりますが、旨味が向上する雪蔵貯蔵じゃがいもの需要が急増しているため、さらに施設を増設し、クリーン農産物であるごぼう、長いもや人参など、より安全・安心、そしておいしい野菜づくりを推進し、付加価値の向上、温室効果ガス削減に努めてまいります。

更に、その他事業所による新エネルギー対策としては、太陽光発電システムや木質ペレットストーブの導入、洞爺湖温泉街のホテル・旅館から発生する廃食油を燃料として活用促進を図ります。

なお、平成19年度実施の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」のパネル展示、DVDを放映するとともに、経済団体等の支援により国内最先端環境技術の展示、国内のエコグッズの紹介等、エコ事業を推進するNPO法人の活動拠点づくり、エコ情報発信施設等の整備により、北海道洞爺湖サミット開催地から日本国内、世界にエコ情報を発信し続ける町として、そして日本最先端の温室効果ガス対策技術やエコ対策を学び、体験できる「エコ情報を発信する観光の町 洞爺湖町」を目指してまいります。



1-2現状分析									
1-2-① 温室効果ガスの排出実態等	<p>当町は、観光地「洞爺湖温泉」を有する観光産業の町であり、火山と共生する町づくりを進めておりますが、経済も低迷し、人口も減少傾向にあります。</p> <p>世帯数は、5,247世帯で、家庭から排出される温室効果ガス排出総量は、年間約46,000トンと推計され、これに観光産業の中心である洞爺湖温泉街のホテル・旅館から排出される暖房、給湯ボイラ燃料、また水産加工場や事業所を含めた当町における温室効果ガス排出年間総量は、約60,000トンと推計されます。</p> <p>当町における温室効果ガスの削減に向けた事業所等の取り組みとしては、当町と洞爺湖温泉利用協同組合が実施しているNEDO事業により、温泉地特有の温泉排水の持つエネルギーを有効活用し、源泉温度の維持と省エネルギー及び温室効果ガス削減を図る洞爺湖温泉排熱を利用したヒートポンプシステム導入事業の実施や、環境省所管「環境と経済の好循環のモデル事業」による、雪エネルギーを利用した雪蔵貯蔵施設、湖水の低温水を利用した湖水利用冷房施設、温泉排熱を利用した暖房・給湯施設、洞爺湖温泉のホテル・旅館から発生する廃食油の燃料としての活用を短期間で行っております。</p> <p>これら温室効果ガス削減に努めた結果、モデル事業の効果とサミット開催地としての意識の相乗効果により温室効果ガス削減意識が高まっており、事業所の新エネルギー導入など削減対策を推進します。</p>								
1-2-② 関係する既存の行政計画の評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>計画の名称及び策定期</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民生部門等地球温暖化対策実証モデル評価事業「洞爺湖温泉排熱を利用したヒートポンプシステム導入事業」 平成18年7月</td> <td>温泉排熱の持つエネルギーを高効率機器ヒートポンプで回収利用し、経済性向上を図るとともに、省エネルギーと温室効果ガスの1つである二酸化炭素排出量は年間1,700トンの削減が見込まれます。</td> </tr> <tr> <td>環境と経済の好循環のまちモデル事業「チーム洞爺湖・マイナス50%事業計画」 平成19年10月</td> <td>伊達市、洞爺湖町、壮瞥町及び豊浦町の洞爺湖を囲む4市町広域連携で実施し、当町においては、雪蔵貯蔵施設、湖水利用冷房施設、温泉排熱を利用した暖房・給湯施設、洞爺湖温泉のホテル・旅館から発生する廃食油を燃料としての活用や木質ペレットストーブの導入により、経済性の向上、省エネルギー及び温室効果ガスの1つである二酸化炭素排出量は年間880トンの削減が見込まれます。</td> </tr> <tr> <td>洞爺湖町さわやか環境条例 平成19年12月</td> <td>平成20年4月から施行され、まだ約2ヶ月を経過したばかりではありますが、一般ゴミの減少、タバコのポイ捨て防止効果が顕著であり、緑化、美化意識も高まっています。今後、廃食油回収システムを確立し、全町的な回収協力体制を構築します。</td> </tr> </tbody> </table>	計画の名称及び策定期	評価	民生部門等地球温暖化対策実証モデル評価事業「洞爺湖温泉排熱を利用したヒートポンプシステム導入事業」 平成18年7月	温泉排熱の持つエネルギーを高効率機器ヒートポンプで回収利用し、経済性向上を図るとともに、省エネルギーと温室効果ガスの1つである二酸化炭素排出量は年間1,700トンの削減が見込まれます。	環境と経済の好循環のまちモデル事業「チーム洞爺湖・マイナス50%事業計画」 平成19年10月	伊達市、洞爺湖町、壮瞥町及び豊浦町の洞爺湖を囲む4市町広域連携で実施し、当町においては、雪蔵貯蔵施設、湖水利用冷房施設、温泉排熱を利用した暖房・給湯施設、洞爺湖温泉のホテル・旅館から発生する廃食油を燃料としての活用や木質ペレットストーブの導入により、経済性の向上、省エネルギー及び温室効果ガスの1つである二酸化炭素排出量は年間880トンの削減が見込まれます。	洞爺湖町さわやか環境条例 平成19年12月	平成20年4月から施行され、まだ約2ヶ月を経過したばかりではありますが、一般ゴミの減少、タバコのポイ捨て防止効果が顕著であり、緑化、美化意識も高まっています。今後、廃食油回収システムを確立し、全町的な回収協力体制を構築します。
計画の名称及び策定期	評価								
民生部門等地球温暖化対策実証モデル評価事業「洞爺湖温泉排熱を利用したヒートポンプシステム導入事業」 平成18年7月	温泉排熱の持つエネルギーを高効率機器ヒートポンプで回収利用し、経済性向上を図るとともに、省エネルギーと温室効果ガスの1つである二酸化炭素排出量は年間1,700トンの削減が見込まれます。								
環境と経済の好循環のまちモデル事業「チーム洞爺湖・マイナス50%事業計画」 平成19年10月	伊達市、洞爺湖町、壮瞥町及び豊浦町の洞爺湖を囲む4市町広域連携で実施し、当町においては、雪蔵貯蔵施設、湖水利用冷房施設、温泉排熱を利用した暖房・給湯施設、洞爺湖温泉のホテル・旅館から発生する廃食油を燃料としての活用や木質ペレットストーブの導入により、経済性の向上、省エネルギー及び温室効果ガスの1つである二酸化炭素排出量は年間880トンの削減が見込まれます。								
洞爺湖町さわやか環境条例 平成19年12月	平成20年4月から施行され、まだ約2ヶ月を経過したばかりではありますが、一般ゴミの減少、タバコのポイ捨て防止効果が顕著であり、緑化、美化意識も高まっています。今後、廃食油回収システムを確立し、全町的な回収協力体制を構築します。								
1-3削減目標等									
1-3-① 削減目標	2050年に向けた長期の温室効果ガスの削減目標を50%とします。中間的な目標としての中期(20~30年程度。以下同じ)の温室効果ガスの削減目標を30%とします。								
1-3-② 削減目標の達成についての考え方	<p>環境と気候変動が主要なテーマのひとつであります北海道洞爺湖サミットの開催地であり、観光地でもある洞爺湖町の洞爺湖温泉街中心部に国内最先端環境技術、国内のエコグッズ等の展示や平成19年度実施の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」のパネル展示、DVDを放映するとともに、エコ事業を推進するNPO法人の活動拠点となるエコ情報発信施設を整備し日本国内、そして世界各国へのエコ情報の発信、環境教育を行なう普及啓発事業等取り組むことにより、地球規模の温室効果ガス削減が期待されます。</p> <p>また、事業所においての、バイオマス事業によるクリーン農業の推進や雪や太陽光など新エネルギーの利用を促進し、温室効果ガス削減に努めます。</p>								
取組み方針	削減の程度及びその見込みの根拠								



	<p>NPO 法人によるエコ対策事業の推進</p> <p>NPO 法人により、地域住民対象に「チーム・マイナス 6%」事業の活動を普及することにより、温室効果ガスの削減を目指します。</p>	<p>エコドライブや電気の小まめな消灯による節減等の推進により、温室効果ガス排出年間総量の 1%である年間 600 トンの削減を図ります。</p>
	<p>カーボンオフセットの推進</p> <p>カーボンオフセット事業として、CO2 吸収効果の高いグイマツを使用した、町民植樹祭はもとより、全国から訪れる約 400 万人の修学旅行生や観光客対象に植樹活動を展開し、植樹活動による温室効果ガスの削減を目指します。</p>	<p>町民植樹祭や修学旅行生等の植樹活動で年間 3,000 本の植樹を行なうことにより、年間 57 トンの温室効果ガスを吸収します。</p>
	<p>バイオマス事業の推進</p> <p>町内から発生する漁業系廃棄物や肉牛生産施設の牛糞などの有用有機資源を活用するための有機肥料生産施設を整備し、循環型クリーン農業を展開し、減農薬、減化学肥料を目指します。</p>	<p>クリーン農業の推進により、化学肥料を年間 32 トン減肥します。</p>
	<p>新エネルギー事業の推進</p> <p>事業所に雪蔵貯蔵施設、太陽光発電システム、木質ペレットストーブ及び廃食油活用システムを導入し、温室効果ガスの削減、エネルギーコストの削減を目指します。</p>	<p>雪蔵貯蔵施設や太陽光発電システムの導入により 2,149 トンの温室効果ガスの削減を図ります。</p>
	<p>エコ情報発信施設整備によるエコロジーの普及啓発</p> <p>国内最先端環境技術や国内のエコグッズ等の展示や平成 19 年度実施の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」のパネル展示、DVD を放映するとともにエコ事業を推進する NPO 法人の活動拠点施設とするためのエコ情報発信施設や「自然との共生を図ってきた日本文化」の 1 つである茶室と日本古来のエコ文化を楽しめる小規模な展示施設を整備し、世界的な波及効果と、温室効果ガス削減の普及啓発に努めます。</p>	<p>日本国内や世界各国への普及啓発であることから、世界的な波及効果が期待できます。</p>
<p>1-3-③ フォローアップの方法</p>	<p>(仮称)「エコロジーを発信する町づくり推進委員会」において温室効果ガスの排出量を確認することにより、削減目標の達成状況を把握するとともに、削減効果の高い事業については、より一層の促進を図るほか、個別事業の取り組み内容の見直しを行う等、目標達成に向けた事業の推進を図ります。</p>	
<p>1-4 地域の活力の創出等</p>		
<p>当町は、「環境と気候変動」が主要テーマのひとつであります北海道洞爺湖サミットの開催地として、今後もこのテーマを引継ぎ、NPO 法人を中心に温室効果ガスの削減に向け全町的な事業推進を図るとともに、エコ情報の拠点施設から、訪れる約 400 万人の観光客はもとより、日本国内や世界各国にエコ情報を発信することにより地球規模の温暖化防止対策の普及啓発が期待されます。</p> <p>また、「国際環境観光モデル先進地づくり」を視点とした新しい環境分野の開拓による、洞爺湖観光とエコロジーの調和と魅力を発信することで、北海道洞爺湖サミット開催地にふさわしい国際観光化を図ることができ、経済の底上げ、観光産業の振興、低迷する雇用の増大が期待できます。</p>		

※必ず改ページ

2 取組内容（※取組内容の整理にあたっては「1-3-②削減目標の達成についての考え方」に記載された取組内容の整理の枠組みを基礎とした柱に沿って取組を分類すること。）

2-1 NPO 法人によるエコ対策推進に関する事項

2-1-① 取組方針

当町は、「環境と気候変動」が主要なテーマのひとつであります北海道洞爺湖サミット開催地として、今後もこのテーマを引継ぎ、エコ対策を推進する NPO 法人により、温室効果ガスの削減に向け全町的推進を図ることとしております。

2-1-② 5 年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
<p>(a)NPO 法人による町内地区別エコ対策事業研修会の開催</p> <p>NPO 法人により、エコ情報発信施設を活用し、町内地区別にエコ対策研修会を開催し、地域住民の温室効果ガス削減のための意識高揚を図るとともに、実施に向けた指導、助言を行ないます。</p>	<p>NPO 法人 周年</p>	<p>エコドライブや電気の小まめな消灯による節減等の推進により、温室効果ガス排出年間総量の 1%である年間 600 トンの削減を図ります。</p> <p>研修内容の充実を図るほか、参加者の動向や関心について把握し、計画的な事業展開について、検討していきます。</p>

2-1-③課題

特になし



※必ず改ページ

2-2. カーボンオフセット推進に関する事項

2-2-①. 取組方針

カーボンオフセットとして、CO2 吸収効果の高い樹種を使用した、町民植樹祭の開催や全国から訪れる約 400 万人の修学旅行生や観光客を対象に植樹活動を展開し、年間 3,000 本の植樹活動により温室効果ガスの削減を目指します。

2-2-②. 5 年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p>(a)町民植樹祭事業</p> <p>毎年5月全町挙げた町民植樹祭により植樹を実施します。</p> <p>年間 1,000 本 (グイマツ「クリーンラーチ」)</p>	<p>洞爺湖町</p> <p>毎年5月</p>	<p>年間 19 トンの削減が見込まれます。</p> <p>毎年、植栽本数等をデータベース化することにより、排出量管理のほか、植生管理を行ないます。</p> <p>植栽計画については、毎年検討を行います。</p>
<p>(b)修学旅行生記念植樹事業</p> <p>旅行代理店を通し、修学旅行生によるカーボンオフセット事業を周知し、記念植樹事業を推進します。</p> <p>年間 1,500 本 (グイマツ「クリーンラーチ」)</p>	<p>(社)洞爺湖温泉観光協会</p>	<p>年間 28 トンの削減が見込まれます。</p> <p>毎年、植栽本数等をデータベース化するとともに、一過性の活動にならないよう、生育状況について発信することで植生の管理と、環境教育としての継続的な意識啓発を図ります。</p> <p>植栽場所については中・長期計画を立て、実施状況をみながら検討を行います。</p>
<p>(c)エコ・カーボンオフセットツアー事業</p> <p>民間事業者の協力により、エコ・カーボンオフセットツアー参加者を募集し、カーボンオフセット事業を推進する。</p> <p>年間 500 本 (グイマツ「クリーンラーチ」)</p>	<p>(社)洞爺湖温泉観光協会</p>	<p>年間 10 トンの削減が見込まれます。</p> <p>毎年、植栽本数等をデータベース化するとともに、一過性の活動にならないよう、生育状況について発信することで植生の管理と、環境教育としての継続的な意識啓発を図ります。また植栽活動に加え、植栽後の整備 (枝払い等) についても毎年検討していきます。</p>

2-2-③課題

植樹場所は、国有地や町有地を確保できるが、植樹用苗木 (グイマツ「クリーンラーチ」) の確保が今後の課題となっています。

※必ず改ページ

2-3. バイオマス事業の推進に関する事項		
2-3-①取組方針		
<p>農業においては、JA とうや湖が中心となり、減化学肥料、減農薬そして有機肥料による安全・安心なクリーン農業を推進しております。これをさらに推進するため、バイオマス事業として、町内から発生する漁業系廃棄物や肉牛生産施設の牛糞などの有用有機資源を活用するための有機肥料生産施設を整備し、町内循環型クリーン農業を展開し、減農薬、減化学肥料による農業を拡大し、温室効果ガスや農業生産コストの削減を目指します。</p>		
2-3-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p>バイオマス施設(有機肥料生産施設)の整備</p> <p>ホタテ貝養殖漁業により排出される雑物や肉牛生産牧場から排出される牛糞などの有用有機資源の発酵処理により有機肥料の有効活用による付加価値を高め、循環型クリーン農業を確立するため、畑作地帯の洞爺湖町花和地区にバイオマス施設を整備します。</p>	<p>JA とうや湖・いぶり噴火湾漁協</p>	<p>クリーン農業の推進により、化学肥料を年間32トン減肥します。</p> <p>施設規模・内容、効果等を検討するため、JA、漁協、生産者及び町により検討委員会を設立します。</p>
2-3-③課題		
<p>JA,漁協及び町いずれも財政的に厳しい状況にあるため、財源確保が課題となっております。</p>		

※必ず改ページ

2-4. 新エネルギー事業の推進に関する事項

2-4-①取組方針

事業者等が、電気、灯油や軽油から雪、太陽光、ペレット、廃食油や温泉排水等などの新エネルギーの活用により、温室効果ガスやエネルギーコストの削減を目指します。

2-4-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p>(a)雪蔵貯蔵施設整備事業</p> <p>平成19年度、環境省の補助事業によりJAとうや湖が、雪エネルギーを活用した雪蔵貯蔵施設（じゃがいも貯蔵能力1,500トン）を整備していますが、旨味が向上する雪蔵貯蔵じゃがいもの需要が急増しているため、クリーン農産物であるごぼう、長いもや人参など、より安全・安心、そしておいしい野菜づくりを推進するため、洞爺湖町香川に1,000トン規模の施設を増設します。</p>	JAとうや湖	1,000トン能力の雪蔵貯蔵施設を整備した場合、155トンの削減が見込まれます。
<p>(b)太陽光発電システム導入事業</p> <p>町内にある水産加工場等の商用電力を削減するため、太陽光発電システムの導入を図ります。</p>	民間事業者	太陽光発電により278トンの削減が見込まれます。
<p>(c)木質ペレットストーブ導入事業</p> <p>地域のホテル、旅館等の暖房用として木質ペレットストーブ年10台(50台を目標)の導入を図ります。</p>	民間事業者及び地域住民	冬季間の灯油使用量が、1,800Lであるため、ペレットストーブ1台当たり4.5トン、50台で225トンの削減が見込まれます。
<p>(d)廃食油活用事業</p> <p>洞爺湖温泉のホテル・旅館等から発生する大量の廃食油を、洞爺湖周遊バス燃料や農業用暖房燃料として活用するとともに、回収システムの確立を図ります。</p>	民間事業者	平成19年度町による聞き取り調査の結果、洞爺湖温泉のホテル・旅館から30,000Lの廃食油が発生するため、これを軽油換算した場合、91トンの削減が見込まれます。
<p>(e)ヒートポンプ導入事業</p> <p>暖房・給湯施設を、温泉排水や地下水を熱源とするヒートポンプシステムによる熱交換利用を図ります。</p>	ホテル及び公的医療機関	ホテル1件及び医療法人1件で1,400トンの削減が見込まれます。

2-4-③課題

民間事業者の場合、設備費が高額なため新エネルギー活用事業に着手できない状況にあります。



※必ず改ページ

2-5. エコ情報発信施設整備によるエコロジーの普及啓発に関する事項

2-5-①取組方針

エコ対策を推進するNPO法人の拠点施設ともなるエコ情報発信施設を整備し、北海道洞爺湖サミット開催地から日本国内、世界にエコ情報を発信するとともに、環境教育によりエコロジー普及啓発を図ります。

また、日本文化を取り入れたサブ施設を北海道洞爺湖サミット開催施設のあるふもとに整備し、日本の古来からのエコ文化の紹介、情報を発信し、世界に向け温室ガス削減対策の普及啓発に努めます。

2-5-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p>(a)エコ情報発信施設整備によるエコロジーの普及啓発</p> <p>サミット開催時、外務省等の現地本部となる旧火山科学館の3階、4階に、国内最先端環境技術や国内のエコグッズ等の展示や平成19年度実施の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」のパネル展示やDVDを放映するとともに、エコ事業を推進するNPO法人の活動拠点施設とするため、エコ情報発信施設を整備し、サミット開催地から日本国内、そして世界にエコ情報を発信し、日本最先端の温室効果ガス対策技術やエコ対策を学び、体験してもらうことにより、地球規模の温室ガス削減の普及啓発に努めます。</p> <p>更に洞爺湖町月浦にある「グリーンステイ洞爺湖（オートキャンプ場）の洞爺湖畔が見える眺望の良い場所に、主に諸外国からの来訪者対象に、「自然との共生を図ってきた日本文化」の1つである茶室と日本古来のエコ文化を楽しむ小規模な展示施設を整備し、世界にエコ文化情報を発信し、温室ガス削減の普及啓発に努めます。</p>	<p>洞爺湖町</p>	<p>(仮称)「エコロジーを発信する町づくり推進委員会」を設立し、事業内容の検討を行ないます。</p>

2-5-③課題

北海道洞爺湖サミット開催に伴い、国内最先端環境技術展示品等をエコ情報発信施設に導入、展示したいと考えております。



3. 平成 20 年度中に行う事業の内容	
取組の内容	主体・時期
<p><b>エコロジーの普及啓発のためのエコ情報発信施設整備</b></p> <p>サミット開催時、外務省等の現地本部となる旧火山科学館の 3 階、4 階に、国内最先端環境技術や国内のエコグッズ等の展示や平成 19 年度実施の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」のパネル展示や DVD を放映するとともに、エコ事業を推進する NPO 法人の活動拠点とすべく、エコロジー発信施設を整備し、サミット開催地から日本国内、そして世界にエコ情報を発信し、日本最先端の温室効果ガス対策技術やエコ対策を学び、体験してもらうことにより、地球規模の温室ガス削減の普及啓発に努めます。</p> <p>更に洞爺湖町月浦にある「グリーンステイ洞爺湖（オートキャンプ場）の洞爺湖畔が見える眺望の良い場所に、主に諸外国からの来訪者対象に、「自然との共生を図ってきた日本文化」の 1 つである茶室と日本古来のエコ文化を楽しめる小規模な展示施設を整備し、エコ文化情報を発信し、温室ガス削減対策の普及啓発に努めます。</p>	<p>洞爺湖町</p> <p>平成 20 年 8 月～12 月</p>
4. 取組体制等	
行政機関内の連携体制	洞爺湖町役場内に（仮称）「エコロジーを発信する町づくり推進プロジェクトチーム」を設置し、国内外にエコロジー情報を発信、普及するエコ情報発信施設の検討を行ないます。
地域住民等との連携体制	（仮称）「エコロジーを発信する町づくり推進委員会」の設立により、北海道洞爺湖サミット開催を契機に町民、事業者及び町が一体となり、エコロジー推進の町づくりを検討するとともに、国内外にエコロジー情報を発信し、普及するエコ情報発信施設の検討を行ないます。
大学、地元企業等の知的資源の活用	国内最先端環境企業の紹介や技術資料の提供を受けるとともに、エコグッズの収集を行ないます。

※ 5 年以内に具体化する予定の取組については、その実施箇所を一覧できる地図を添付すること

※必要に応じて適宜、行や欄の追加、注記・例示の削除を行ってよいが、様式 1、2 の全体の枚数は 10 枚程度とすること。また、様式に入力する文字は 105 ポイント以上とすること。



# (洞爺湖町)環境モデル都市提案書(様式2)

## 1-1 環境モデル都市としての位置づけ

洞爺湖町は、北海道の中央南西部「支笏洞爺国立公園」区域内に位置し、総面積は181平方キロメートル、観光と農業・漁業が盛んで、洞爺湖と有珠山、そして内浦湾に囲まれた緑豊かな大地と景観あふれる町です。

当町は、以前より環境への取り組みを進めておりましたが、北海道洞爺湖サミット開催決定を契機に、更に美しい自然景観や環境を保全するとともに、2030年温室効果ガスを50%削減することを目標値として掲げ、産業施設を中心に環境負荷の低減と経費節減を具体的に推進するためにチーム洞爺湖マイナスイナス50%事業(環境省所管「環境と経済の好循環のまちモデル事業」)を立ち上げ、美しい環境対策先進観光地洞爺湖を目指しております。

「環境と気候変動」が主要なテーマのひとつであります北海道洞爺湖サミット開催地として、今後このテーマを引継ぎ、エコ対策を推進するNPO法人等による温室効果ガスの削減に向けた全町的な推進やカーボンオフセット事業として、CO2吸収効果の高い樹種を使用した植樹活動を展開してまいります。

産業分野では、農業における減化学肥料、減農薬や有機肥料による安全・安心なクリーン農業の更なる推進として、バイオマス事業を展開し、漁業や畜産業から排出される有用有機資源の発酵処理により有機肥料の有効活用による付加価値を高めた、循環型クリーン農業を推進するとともに、JAとうや湖が整備している雪エネルギーを活用した雪蔵貯蔵施設を増設し、クリーン農産物であるごぼうや長いも人參など、より安全・安心、そしておいしい野菜づくりを推進し、付加価値の向上、温室効果ガス削減に努めてまいります。

更に、その他事業所による新エネルギー対策としては、太陽光発電システムや木質ペレットストーブの導入、洞爺湖温泉街のホテル・旅館から発生する廃食油を燃料として活用促進を図ります。

なお、平成19年度実施の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」のパネル展示、DVDを放映するとともに、経済団体等の支援により国内最先端環境技術の展示、国内のエコグッズの紹介等、エコ事業を推進するNPO法人の活動拠点づくり、エコ情報発信施設等の整備により、北海道洞爺湖サミット開催地から日本国内、世界にエコ情報を発信し続ける町として、そして日本最先端の温室効果ガス対策技術やエコ対策を学び、体験できる「エコ情報を発信する観光の町 洞爺湖町」を目指してまいります。

## 1-2. 現状分析

当町は、観光地「洞爺湖温泉」を有する観光産業の町であり、世帯数は、5,247世帯で、家庭から排出される温室効果ガス排出総量は、年間約46,000トンと推計され、これに観光産業の中心である洞爺湖温泉街のホテル・旅館から排出される暖房、給湯ボイラ燃料、また水産加工場や事業所を含めた当町における温室効果ガス排出年間総量は、約60,000トンと推計されます。

当町における事業所等の取組みとしてはNEDO事業による洞爺湖温泉排熱を利用したヒートポンプシステム導入事業による洞爺湖温泉排熱の活用など、短期間で行っております。これらの取組みの結果、モデル事業の効果とサミット開催地としての意識の相乗効果により温室効果ガス削減意識が高まっております、事業所の新エネルギー導入など削減対策を推進します。

## 1-3. 削減目標等

- ・ 2050年に向けた長期の温室効果ガスの削減目標を50%とします。
- ・ 中間的な目標としての中期の温室効果ガスの削減目標を30%とします。
- ①NPO法人によるエコ対策事業の推進
- ②カーボンオフセットの推進
- ③バイオマス事業の推進
- ④新エネルギー事業の推進
- ⑤エコ情報発信施設整備によるエコロジエの普及啓発

## 1-4. 地域の活力の創出等

当町は、「環境と気候変動」が主要テーマのひとつであります北海道洞爺湖サミットの開催地として、今後このテーマを引継ぎ、NPO法人を中心に温室効果ガスの削減に向け全町的な事業推進を図るとともに、エコ情報の拠点施設から、訪れる約400万人の観光客はもとより、日本国内や世界各国にエコ情報発信することにより地球規模の温暖化防止対策の普及啓発が期待されます。

また、「国際環境観光モデル先進地づくり」を視点とした新しい環境分野の開拓による、洞爺湖観光とエコロジエの調和と魅力を発信することで、北海道洞爺湖サミット開催地にふさわしい国際観光化を図ることができ、経済の底上げ、観光産業の振興、低迷する雇用の増大が期待できます。



# (洞爺湖町) 環境モデル都市提案書(様式2)

